

## 地域の国際化を考える

(自治体等側) 阿見町町民生活部町民活動課・課長

白石 幸也

(大学側) 茨城大学全学教育機構・准教授

瀬尾 匡輝

### 連携先

阿見町町民生活部町民活動課

阿見町国際交流協会

### プロジェクト参加者

白石幸也 (阿見町町民活動課、課長：  
プロジェクト総括)

高須徹 (阿見町町民活動課、課長補佐：  
企画・運営、関係機関調整)

高橋史成 (阿見町町民活動課、主任：  
情報収集、会場の手配)

湯原清和 (阿見町国際交流協会、事務局長：  
関係機関調整)

坂上伸生 (茨城大学農学部、准教授：  
企画・運営)

瀬尾匡輝 (茨城大学全学教育機構、准教授：  
プロジェクト総括)

### プロジェクトの実施概要

#### ① プロジェクトの目的と期待される効果

本事業の対象となる阿見町では、1999年に536人だった町内の在留外国人数は、2009年には778人となり、2020年には1,025人となった。この20年間で約2倍も町内に住む在留外国人数は増えており、新型コロナウイルス感染症が拡大し、日本への入国が難しくなったなかでも、その数は減ることはなかった。

過去2年間、本プロジェクトの助成を受け、自治体と大学、地域住民が一体となって地域の国際化を進めることができるようになってきた。しかしながら、昨年度実施したアンケート調査からは、阿見町国際交流協会の一般

会員たちがさまざまな活動のアイデアを持ち、当事者意識を持って協会の活動に参加しようとしていることが明らかになる一方で、会員自身の高齢化からイベントを運営するにしても、若い在留外国人の興味や関心に合うようなイベントが企画できなかったり、SNSを活用した広報に取り組みなかったり、イベント当日のマンパワーが不足したりしていることが明らかになった。そこで、最終年度である令和4年度は、令和2年度に実施した円卓会議及び令和3年度に実施したアンケート調査の結果を参考にしながら、町内の地域住民と在留外国人が交流できるイベントを阿見町国際交流協会の会員と茨城大学の学生が協力して企画・運営をすることにした。具体的には、在留外国人と日本人と一緒に日本語で活動をするイベントを実施することで、在留外国人を含む阿見町の地域住民が日本語でコミュニケーションを取りながら交流を深めるとともに、若い人たちの力を得ながら、町民たちが当事者意識を持って地域の国際化に参画できるようになることを目指した。

#### ② 連携の方法及び具体的な活動計画

令和3年度に阿見町国際交流協会の会員を対象に行ったアンケート調査で、阿見町国際交流協会の新たな活動を検討するワーキンググループへの参加を表明してくれた会員とワーキンググループを令和4年に立ち上げた。ワーキンググループのメンバーが中心になり、新たな活動案について検討を始め、令和4年12月に茨城大学の学生と共にイベントを開催することにした。

## プロジェクトの実施成果

### ① 活動実績

ワーキンググループのミーティングを計6回、茨城大学の学生のためのミーティングを計2回行い、地域住民と在留外国人が交流するイベントを12月に実施した。以下に、各活動の詳細を記す。

#### 第1回ワーキンググループ ミーティング

令和4年4月22日（金）19:00～20:30

場所 阿見町役場3階301会議室

参加者：

阿見町国際交流協会会員 6名

阿見町役場職員 3名

茨城大学教員 2名

議題

- ・ 令和3年度に実施したアンケート結果の共有
- ・ 阿見町国際交流協会の新たな活動の検討

第1回目のミーティングでは、まず令和3年度地域研究・地域連携プロジェクトの支援を受けて実施したアンケート調査の結果を報告した。そして、アンケートの結果を受けて、ミーティング参加者で阿見町国際交流協会が抱える課題について話し合った。結果、特に協会の会員が高齢化していることから、以下の課題が浮かび上がった。

1. 若い在留外国人の興味や関心に合うようなイベントが企画できない
2. SNSを活用した広報に取り組めない

そこで、茨城大学の学生と協力して町内の地域住民と在留外国人が交流できる新たなイベントを企画・運営することを目指して、令和4年度地域研究・地域連携プロジェクトに申請することにした。

7月に採択結果が通知され、7月末より本活動への参加を希望する茨城大学の学生を募集した。結果、10名の学生が申し込んだ。

地域の国際化を支援しよう！  
運営ボランティア募集

この活動はIOPにも認定されています！

茨城県は日本で10番目に在留外国人の数が多く！

学部・学年問わず誰でも参加できます！

活動を通して、在留外国人が置かれている状況と必要とされる支援について学びます！

この活動では、阿見町国際交流協会と協力して、阿見町に住む地域住民と在留外国人が日本語でコミュニケーションを取りながら交流を深めるイベントの企画・運営をしてもらいます。以下、具体的な活動の流れです。

|           |                                                                                                             |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 8月末       | 事前指導—在留外国人についての講義及び活動の概要説明<br>阿見町国際交流協会との打ち合わせ<br>※オンラインによる開催（対面での参加も可能-会場 阿見町役場）<br>※平日の夜を予定（参加者の予定をもとに調整） |
| 9月～10月    | 10月23日の「さわやかフェア」に向けた準備—各国を紹介する提示物を阿見町国際交流協会日本語講座の学習者で作成します。その提示物作成の支援を行います。<br>※オンラインで支援をする予定               |
| 10月23日（日） | さわやかフェアへの参加 ※対面を予定。日立・水戸から送迎します！                                                                            |
| 10月～11月   | 12月10日のイベントに向けた準備                                                                                           |
| 12月10日（土） | 阿見町に住む地域住民と在留外国人が日本語でコミュニケーションを取りながら交流を深められるイベントを実施する ※対面を予定。日立・水戸から送迎します！                                  |
| 12月末      | 事後指導—阿見町国際交流協会の担当者も交えて、活動の振り返りをオンラインで行う。<br>※オンラインによる開催（対面での参加も可能）                                          |

**参加者募集説明会**  
2022年8月3日（水）12:00～  
場所：yp20izy (International Lounge)  
※チームの登録をして、ご参加ください。

参加申込は[こちら](#)から  
（8月9日（火）締切）

本活動に関する問い合わせ：  
茨城大学グローバル教育センター  
瀬尾匠輝 masaki.seo.ms@vc.ibaraki.ac.jp

茨城大学  
Ibaraki University

図1 広報チラシ

#### 第2回ワーキンググループ ミーティング

令和4年8月22日（金）19:00～20:30

場所 阿見町役場3階301会議室+ZOOM(オンライン)

参加者：

阿見町国際交流協会会員 5名

阿見町役場職員 2名

茨城大学学生 8名

茨城大学教員 1名

議題

- ・ 今後の活動について

当初は、12月に実施するイベントに加え、町の健康・福祉・環境・産業・交通・防犯等および社会福祉協議会・シルバー人材センターの事業を広報する「さわやかフェア（10月23日予定）」での阿見町国際交流協会の出展をサポートする計画もあった。第2回のミーティングでは、さわやかフェア当日に以下の3つの活動に取り組むことで合意した。

1. 町内の在留外国人及び茨城大学の留学

- 生に協力を得て、切り絵などの文化ワークショップを行う
- 文化ワークショップが難しい在留外国人及び留学生は、お国自慢のようなスピーチ、簡単な出身国の言語講座（例 ベトナム語の挨拶など）を準備する
  - 在留外国人に向けた折紙ワークショップなどの文化的な活動の実施—阿見町国際交流協会の日本語教室の学習者にも参加するよう促す

加えて、在留外国人及び留学生の各国・各地域を紹介する掲示物を作成することも検討した。しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大により、さわやかフェアの開催は中止となり、上記の活動は行わなかった。

ミーティングでは、さわやかフェアでの活動についての話し合いに多くの時間に割かれ、12月のイベントについては、12月に「地域住民と在留外国人が交流できるイベント」を行う旨を説明し、どんな活動をするかブレインストームするにとどまった。大まかな方向性としては、親子が参加できるイベントとし、巻きずしづくり、餅つき、そばうち、おいしいそばの食べ方紹介、おせち料理づくり、スポーツイベント等のアイディアが共有された。時間が限られていた関係から、9月上旬に茨城大学の参加学生のみで集まって活動について検討し、次のミーティングで活動案を提案することになった。

#### 茨城大学の学生のためのミーティング

令和4年9月12日（月）10:00～11:30

場所 Teams（オンライン）

参加者：

茨城大学学生 10名  
茨城大学教員 2名

ランダムに分かれた4つのグループで、12月に実施するイベントについて検討した。グループ4が活動の全体についてデザインし、そ

他の3つのグループ（グループ1、グループ2、グループ3）は子どもを対象とした活動の詳細を考えることになった。

#### 第3回ワーキンググループ ミーティング

令和4年9月21日（水）19:00～21:00

場所 阿見町役場3階305会議室+ZOOM(オンライン)

参加者：

阿見町国際交流協会会員 5名  
阿見町役場職員 3名  
茨城大学学生 10名  
茨城大学教員 2名

議題

- ・ 12月イベントの提案



図2 ミーティングの様子

グループ4の学生が以下のような活動の概要を伝えた。

イベントの目的：

- ・ 地域住民との交流を深め、コネクションをつくる
- ・ 日本文化に触れる

参加対象

- ・ 小学生とその親（在留外国人だけではなく、日本人も含む）

そして、各グループはそれぞれの活動のアイディアを共有した。

グループ1—巻きずしづくり

グループ2—凧づくり、コマづくり

グループ3—絵馬づくり、ヨーヨー釣り

#### 第4回ワーキンググループ ミーティング

令和4年11月1日（火）19:00～20:30  
 於 阿見町役場3階305会議室+ZOOM（オンライン）  
 参加者：  
 阿見町国際交流協会会員 5名  
 阿見町役場職員 3名  
 茨城大学学生 10名  
 茨城大学教員 1名  
 議題  
 ・ 参加者募集チラシの確認  
 ・ 12月イベントの詳細について

令和4年11月29日（火）19:00～20:30  
 場所 阿見町役場3階305会議室+ZOOM（オンライン）  
 参加者：  
 阿見町国際交流協会会員 5名  
 阿見町役場職員 3名  
 茨城大学学生 10名  
 茨城大学教員 1名  
 議題  
 ・ イベントの最終確認

第4回目のミーティングでは、まず、本プロジェクト参加学生が作成した参加者募集のチラシの確認を行った。

阿見町に住む外国につながる子どもたち  
あつまれ！

日本文化体験  
(にほんぶんかたいけん)

巻きずし作り  
Rolled Sushi

たこ・コマ作り  
Kito&Spinning top

ヨーヨー釣り・  
絵馬(えま)作り  
Yo-Yo Fishing  
& Ema making

※絵馬(えま)  
ねがいごとを書く小さな板のこと

日時：2022年12月4日（日）  
10:00～12:30  
場所：阿見町中央公民館  
(阿見町若栗1886-1)

参加費：無料  
申し込み：下記フォームから  
申し込み期限：11月27日（日）  
<https://forms.office.com/r/hS8dtREz7Q>

主催  
茨城大学グローバル教育センター・  
阿見町国際交流協会・阿見町民活動課  
本イベントは、茨城大学社会連携センター支援事業  
「地域研究・地域連携プロジェクト」の助成を受け、  
実施しています。

保護者交流会  
日本での生活で  
困っていること  
悩んでいることなど  
お気軽に  
ご相談ください！

日本人の子どもと保護者も  
歓迎いたします！  
(定員10組、応募多数の場合は抽選)

お問い合わせ  
茨城大学グローバル教育センター  
准教授 瀬尾匡雄  
masaki.seo.ms@vc.ibaraki.ac.jp

図3 学生が作成したイベント告知チラシ

チラシは日本語と英語の両言語で作成し、阿見町教育委員会の協力のもと、阿見町内の小学校に配布した。

第4回目のミーティングでは、各活動の詳細及び予算で購入する物品を確定した。

#### 第5回ワーキンググループ ミーティング

12月4日に実施するイベントの最終確認を行った。

#### 地域住民と在留外国人が交流できるイベント

令和4年12月4日（日）10:00～12:30  
 場所 阿見町中央公民館  
 参加者：  
 保護者 5名  
 児童 9名  
 阿見町国際交流協会会員 9名  
 阿見町役場職員 3名  
 茨城大学学生 10名  
 茨城大学教員 1名

12月4日のイベントは以下の流れで行った。

|                                                                                      |                                                      |
|--------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| 10:00                                                                                | 趣旨説明                                                 |
| 10:10                                                                                | 子どもたちは以下の3つのグループに分かれて活動を行った。25分でローテートして、計3つの活動に参加した。 |
|  |                                                      |
| グループ1 巻きずしづくり                                                                        |                                                      |

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       |  <p>グループ2 凧づくり、コマづくり</p>  <p>グループ3 絵馬づくり、ヨーヨー釣り</p> <p>子どもたちが各活動に参加している間、保護者たちは交流会に参加し、日本での生活で困っていることや悩んでいることについて話し合った。</p>  <p>保護者交流会</p> |
| 12:00 | <p>活動で作成した凧を持って外に出て、一緒に凧揚げをした。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                           |

参加した在留外国人の子ども達とその親、日本人の子ども達とその親が楽しみながら交流をしている姿が印象的だった。本活動に参加した子どもたちからは、「楽しかった」「また参加したい」といった声が多々聞かれた。特に今回は来日間もない児童も参加しており、

日本での生活に不慣れななか、同じ境遇の仲間たちと活動を通して仲を深めている姿も垣間見られた。

本活動に参加した茨城大学の学生を対象に行ったアンケートからは、「役場の方や交流協会の方との会議を通して、自分では思いつかなかったところに企画の改善点があり視野が少し広がった」、「活動にやりがいを感じることができた」など肯定的な声が聞かれた。

#### 茨城大学の学生のみのミーティング

令和4年12月12日（月）20:00～21:30

場所 Teams（オンライン）

参加者：

茨城大学学生 10名

茨城大学教員 2名

ミーティングでは、活動全体のふりかえりを行った。

#### ② プロジェクトの達成状況

本プロジェクトは、これで3年目となり、地域研究・地域連携プロジェクトに申請するのはこれが最後となる。初年度（令和2年度）に、阿見町役場の関係各所の担当者と実施した円卓会議では、自助・共助・公助の重要性が明らかになった。

##### 自助

在留外国人も日本語を学ぶなどして、コミュニティに適応していく必要がある。

##### 共助

在留外国人を受け入れる側の日本人も在留外国人をサポートすることで在留外国人をコミュニティに受け入れていく必要がある。

##### 公助

在留外国人及び日本人を行政がサポートをしていくことで、よりよい形で町内の在留外国人を支援していくことができるようになる。

しかしながら、1) 町では外国人を受け入れている企業、農家、病院などの情報を十分に把握しきれておらず、そこで働く在留外国人が自助のためにどのような日本語学習の場を求めているかを十分に把握できていない点、2) 町民と在留外国人が交流できる場がなく、共助のために在留外国人をコミュニティに受け入れていく土壌ができていない点、3) 役場の窓口における在留外国人に対する対応に役場職員が困難を感じており、十分に公助が発揮されていない点が課題として浮き彫りになった。そこで、本プロジェクトの2年目である令和3年度に、以下の活動を実施することとした。

- 1) 町内の企業、農家、学校へのアンケート調査を行い、外国人受け入れの現状と困難を明らかにし、どのような支援が必要なのかを把握する。
- 2) 町内の地域住民と在留外国人が交流できるイベントを開催し、互いに理解が深められるようになることを目指す。
- 3) 阿見町役場職員等に向けた「やさしい日本語」に関するワークショップの開催を通して、多くの職員が悩みを抱えている在留外国人に対する窓口対応時のコミュニケーションの方法を指導する。

だが、令和3年度はコロナ禍であったことに加え、研究プロジェクトの大学側の事業責任者である瀬尾が後学期に育児のための短時間勤務を取得したため、プロジェクトに費やせる時間が限られてしまい、町内の地域住民と在留外国人が交流できるイベントと阿見町役場職員等に向けた「やさしい日本語」に関するワークショップを開催することはできなかった。そのような状況ではあったものの、最終年度である令和4年度に、茨城大学の学生と阿見町国際交流協会の会員が協力して、地域住民と在留外国人が交流できるイベントを開催することができた。役場の職員を対象と

した「やさしい日本語」に関するワークショップはいまだ開催できてはいないが、令和4年度は阿見町内の一般市民を対象とした「ボランティア日本語講師養成講座」(令和5年1月～2月、合計8時間、受講者16名)を開講し、在留外国人との具体的な接し方を教示し、一般市民に対しては「やさしい日本語」を紹介することができた。

### ③ 今後の計画と課題

交流イベントを開催することはできたものの、参加する在留外国人及び日本人の数は極めて少なかった。今後は、阿見町国際交流協会が抱えるもう一つの課題であったSNSを活用した広報の取り組みについて、茨城大学の学生の協力も得ながら、さらに取り組んでいきたい。また、阿見町内の在留外国人に対する支援がさらに行き届くよう、いまだ実施ができていない役場の職員を対象とした「やさしい日本語」に関するワークショップを実現したい。そして、令和4年度はコロナ禍の影響で開催されなかったさわやかフェアに参加し、茨城大学の学生の協力を得ながら、阿見町内の地域住民と在留外国人が交流できる場を今後も創出していきたいと考えている。